

Npop'n

えぬぽっぴん

VOL.158

◆X(旧Twitter)



◆Instagram



◆HP



NPO POP NEWS=(略して)『Npop'n』

新宿NPO協働推進センターから、社会貢献活動に関連したPOPなNEWS(話題)をお伝えします！

【交流事業 報告】『NPO×学生・次世代』共感から行動へ。

今号では、6月27日(土)に開催した交流イベント①NPO×学生・次世代『共感から行動へ。』～社会との関わりが、自分未来につながる～の様子を紹介します。

本イベントでは、実際に社会課題に取り組む学生団体のリアルな体験を通じて、「共感」がどのように「行動」へと変わるのかを紐解き、その経験が価値観の変化やスキルの獲得、進路選択にどうつながっていくのかを深掘りしました。また、「自分にもできるかもしれない」、そんなきっかけを見つけ、一歩踏み出すための機会を提供しました。

【登壇団体/登壇者】

手嶋 大翔 氏(認定特定非営利活動法人アイセック・ジャパン 早稲田大学委員会 送り出し事業 統括)

武田 郁 氏(学生国際協力NGO FEST TOKYO 代表)

成田 茉央 氏(NPO法人WELgee 統括ディレクター 事業推進・法人連携)

宇地原 栄斗 氏(特定非営利活動法人Learning for All 子ども支援事業部)

◆ファシリテーター

山下 馨(一般社団法人NPO協働機構 代表)

◎事例紹介①手嶋 大翔(てしま まさる) 氏

アイセックは第2次世界大戦後の1948年、この大戦のような惨事を繰り返してはならないという強い思いからヨーロッパで設立されました。現在、100以上の国と地域に支部があり、3万人以上のメンバーが所属しています。日本では1962年に支部ができ、現在は25の大学委員会、1,000人以上のメンバーとなっています。

私が入った理由は直接的には入学式でビラをもらったことですが、入会の背景には3つの思いがありました。1つは学校で学んだことで誰かの役に立つことがしたい。2つは敷かれたレールから外れることをしてみたい。3つは内気かつ受け身の自分を変えたい。この3つです。

アイセックの設立当初の想いを実現するためには、若者一人一人のリーダーシップの育成が不可欠と考え、その育成のため「グローバルボランティア」事業を行っています。この事業に参加すると、世界の100以上の国と地域のどこにでも渡航でき、現地で世界各地から来た若者と交流できます。私は昨年、カンボジアでの教育支援プログラムに参加しました。自分が受けてきた教育や塾講師の経験などから子どもたちに教えることが容易にできると思っていたのですが、通用しませんでした。無力感にとらわれましたが、ボランティア先の学校の校長や教頭の教育にける熱意や家族の一員として受け入れてくれている態度などから、この現場で本当に何が必要かを考え、現地の先生方と一緒に目の前にある課題の解決に取り組むことができました。この経験は非常に貴重なものでした。

大きな社会問題も小さな問題の集合です。どんな小さな一歩でもそれはあなたにしかできない一歩であり、社会貢献です。勇気ある一歩を踏み出して欲しいと思います。

◎事例紹介②武田 郁(たけだ いく) 氏

団体名のFEST TOKYOのFESTは、“Focus on Equality Student perspective Together”の略で、学生目線の支援・啓発を現地の人たちと、ともに行う団体という意味が込められています。



手嶋氏



武田氏と蔵元氏 1

2010年に設立され、支援地はフィリピンのセブ島で、その中の小さな地域を選定して活動しています。私たちは「世界から向こう見ずな支援をなくす」を理念に掲げ、東京を拠点に活動する学生主体（インカレ）の国際協力団体です。

年2回のフィリピン・セブ島渡航や現地での支援活動のほか、新宿NPO協働推進センターで毎週水曜日にミーティングやプロジェクトの立案を行っています。

私たちは支援先の人たちが最終的には支援なしでも生活していける支援を目指しています。そのため、①住民のニーズに合った支援、②住民主体の実施、③短期（3～5年）で撤退を基本的考えにしています。年に2回、春と夏に渡航して現地の人々からニーズ調査をし、帰国後にその背景の原因を分析しています。それを踏まえたプロジェクトを考案・実施準備をし、次の渡航で実施に移し、帰国後評価とプロジェクト内容の改善をし、次の渡航で実施するというプロセスです。現在は現地でのニーズ調査と背景分析などにより、スモールビジネスプロジェクトを行っています。

渡航前まではスラムについて一種の固定観念を持っていましたが、取り組んでみてスラムの人々の生活や支援に対する認識が変わり、将来の自分のキャリアについても方向が見えつつあるようになっていきます。

◎事例紹介③成田 茉央（なりた なお）氏

日本にきた難民の人生再建、日本でキャリアを作る取組みをボランティアの方の協力を得て行っています。私は違和感から行動が始まると思っています。誰かが「違うのではないか」、「こうした方が良いのではないかと」思ったところから始まると思っています。

私は台湾で生まれ育ちました。子どものころに旅行で訪れた東南アジアで同じ年頃のストリートチルドレンを見て、なぜ自分とあの子たちは違うのかと思いました。また、小学校で日本に戻ってきて、いじめを感じたり、私のことはわかってもらえないという感覚を持ったりしました。こういったことが、日本で生きづらさを感じている外国人に関わっている私のキャリアに繋がっていると思います。

大学に入学した時、大学に行けるのは一種の特権だと思い、また人生最後の夏休みだと思い、精一杯自分の好きな事をしようと思い、また実際海外でのインターンや国内での災害ボランティアなど様々なことをしました。就職にあたっては、企業で武者修行をして、ソーシャルなところに戻ってくるのだと思っています。

WELgeeのことは、学生の時に難民と手を繋ごうというイベントで知っていました。実際に難民と関わってみると、多様な能力や経歴を持った人々で、紛争などがなければ母国で活躍できたかもしれない人々です。こういった人の日本でのキャリア形成、人生再建に伴走しながら取り組んでいます。

学生の皆さんには事実を知ること、自分のコアな価値観を探ることを大事にしてほしいと思います。また、日頃出会う小さな違和感を形や言葉にしていきたいと思います。

◎事例紹介④宇地原 栄斗（うじはら えいと）氏

Learning for All (LFA) のミッションは「子どもの貧困」の解決です。

子どもの貧困はお金がないことがベースにあって、それ以外の様々な不利や困難が積み重なった状態だと思っています。そのため、子どもへの包括支援を行っています。

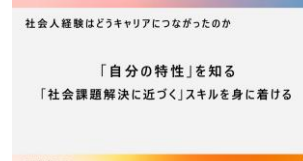
LFAは子どもの学習支援をしている団体でした。しかし、勉強を教えるだけではどうしても子どもに出会うことがあります。そこで、子どもの生活を支える事業として「居場所」を始めました。居場所という1種類の社会資源だけでは子どもの環境を良くするには不十分なので、地域全体の環境を良くするために関係団体とのノウハウ等の共有、そして国の法律や仕組みを変えることにも取り組んでいます。

LFAは学生の熱量で作ってきた組織の面があり、今も200人くらいの学生が関わってくれています。LFAは彼らがリーダーとして成長することにこだわっていて、日々の活動の中に成長できるプログラムを組み込んでいます。

学生の時期は人生を決めていく上で大事な時期です。目の前にいる誰か、その先にある社会のことを必死に考える時期を過ごして欲しいと思います。LFAの仲間になって欲しいし、そうでなくても目の前の誰かに心を砕く経験をするのではないかと思います。



成田氏



宇地原氏



◎トークセッション/交流タイム

- (質問) 会員やボランティアの募集はどのようにしていますか？
- (宇地原) WEB広告、既に関わっている学生の口コミ、大学教員の理解を得て授業中に活動紹介等、空中戦と地上戦を掛け合わせて行っています。
- (成田) 企業で講演をした時に「こういった人が欲しい」という話をします。社会課題に関心があっても企業に入った後は接点を持っていない人が多いので、参加者は講演で聞いてとか、口コミでというのが多いです。
- (武田) FESTはインカレ団体なのでメンバー募集が弱点です。Instagramを使っていますが、その他の方法・手段を模索している状況です。
- (手嶋) 大学ごとの委員会なので、学内で募集しています。入会は春と秋の入学シーズンに行っています。グローバルボランティアの渡航は年間です。Instagramやビラで募集しています。
- (質問) 「勇気をもって一步出ないといけない」ことについてどう思いますか？
- (成田) 最近手話の勉強を始めました。始めたことで地元のつながりができました。やってみると何かが広がります。
- (武田) やりたいをやってみよう。やりたいが一步踏み出す動機になります。
- (手嶋) 一步に「勇気」が付くのは経験することで不安が解消する保証がないからではないかと思います。
- (宇地原) 人は自分だけの考えで決めているのではなく、誰かと関わりながら考えが形成されていると思います。自分の勇気も大事ですが、周りの人の応援や環境も大事だと思います。
- (山下) 近年、学生の就職活動では、企業を選ぶ際に、事業内容や社会貢献への取組みを重視する学生が増えている傾向もあるようです。一方で、給与面等自分の生活ということとの関係はどうでしょうか？
- (成田) 転職した時に給与は半分になりました。企業ではキャリアの上昇に伴って給与が上がりますが、使うお金も増えます。自分にとって心地よい暮らしはどこなのかを考えたとき、「やりたいこと」が勝ちました。今も、自分らしい暮らしと社会に還元とのバランスが課題です。
- (武田) 現在、卒業後のやりたいことが固まりつつあるのですが、そのことと今迄やってきた社会課題が繋がればいいと思っています。
- (手嶋) 就職とカンボジアの教育に関わりたいという思いの間で迷っています。卒業生から卒業後の活躍、アイセックでの経験がどう生きているかを聞く機会も多くあります。
- (宇地原) LFAでは今年からLFAに関わったことがある学生限定ですがオープンな新卒採用を始めました。給与は高くないのに声をかけた半分くらいから関心や応募があり、驚いています。その理由はやってきたことを続けたい、子どものことを真摯に考えている人と一緒に働きたいというものでした。これを美談にしてはいけないと思っています。ライフステージが変わっても転職しなくてもいい処遇が出来る業界にしないといけないと思っています。



交流タイム①



交流タイム②



交流タイム③



交流タイム④



交流タイム⑤

聴かせて
NPO!

✧ちょっと気になるNPO団体を紹介します✧

《認定NPO法人こつこつ》

～障害があっても想いを伝えられる社会へ～

障害がありしゃべることが難しい人も、適切な支援を得てそれぞれの想いを表現し、その人らしく充実した人生を送れる社会を目指す、認定NPO法人こつこつの活動を紹介します。

♪当センターで行われる「第206回市民とNPOの交流サロン」にご登壇いただきます♪

開催日時：2026年9月10日(木)18時45分～20時45分 ※ぜひご参加ください

申込みは
こちらから

参加方法：オンライン(詳細は<https://snponet.net>)

語り手：認定NPO法人こつこつ

参加費：無料

主催・問合せ：一般社団法人NPO協働機構

【電話】03-5206-6527

【E-mail】hiroba@s-nponet.net

後援：新宿区



